

里山で未来を耕す 次世代へつなぐ 数々の挑戦



奈良県金剛葛城山麓の美しい自然環境に抱かれた里山が広がる御所市伏見地区。この地で里山を保全し、棚田などを使った未来を見据えた持続可能な有機農業を営むのが杉浦農園 Gamba Farm です。次世代の農業の可能性を追求し、地域の豊かさを守りながら新たな価値を創造しています。

里山を守るための農業

建設土木コンサルタントとして日本全国のダム現場に従事していた頃に里山のことを知りました。元々自然保護に興味もあり、里山を保全できる活動がしたいと一念発起で仕事を辞め、大阪からこの地に移住。「里山を守る＝農業」だと思い、2003年に杉浦農園 Gamba Farm を設立しました。

農業を始めた頃、借りた場所は荒地でまずは草刈りから始める必要がありました。そうこうしている間に周囲の耕作放棄地がさらに増えてきました。御所市伏見地区は金剛葛城山麓にあたることから、勾配が急で田畑も狭く不整形、加えて獣害もあり、田畑を手放

す方が増え、里山をこれ以上荒れさせてはならないという思いから、耕作放棄地をどんどん借り受けました。現在は約70筆(約3ha)の棚田と畑で酒米や蕎麦などを作っています。



杉浦農園 Gamba Farm
杉浦 英二 代表

里山を100年先へつなぐ

地元の油長酒造株式会社と酒米の契約栽培を始めて15年ほどになりますが、最近になって、農家が栽培したお米からできた日本酒を、農家自身が販売する「農家酒屋」を始めました。酒販免許を取り、インターネットで販売しています。

また、油長酒造は農家が高齢化や後継者不足でどんどん減っていく現状を憂慮され、農家、酒蔵、酒屋、消費者が共生するコミュニティを創ることで、里山を100年先へつなぐことを目的に、伏見地区に葛城山麓醸造所を建てられました。酒蔵ができたことにより、伏見地区の3人の方が酒米づくりに参画してくれるようになりました。さらに輪が広がり、里山保全の取り組みの道筋が見えてきました。

また、耕作放棄地は用水を確保することが難しい場所が多いことから、多くの水を必要としない蕎麦の栽培に取り組んでいます。今後は収穫された蕎麦粉を使った蕎麦店を地元に開業し、蕎麦文化を発展させることを目指しています。さらに将来的には「蕎麦の里」として発展させ、観光資源としても利用できればと考えています。

日本の原風景を後世に

地域の方々と共に自然環境を守り、豊かな里山の未来を築くため2024年5月に設立した「NPO 法人さとやまから」の理事長を今年5月から務めています。個人農家ではできなかったこともできるようになり、法人格を持つことによる信用力で助成も受けやすくなりました。2つの企業から寄付もいただけるようにもなりました。

今後は、会員増強を図るとともに多くの方々に我々の活動内容を知っていただくことが目標です。このためこれまで取り組んできた酒米や蕎麦づくりに励むとともに、もうひとつの活動の軸として、里山を企業研修に使ってもらえないかと考えています。年齢も職種も違う方々が非日常の中で集団生活を行うことで、新たな気づきを得ていければと思います。また研修に参加することで、里山に目を向けてもらい、最終的には移住者を増やすことができれば。この美しい里山を次世代へとつなげていくことが我々の使命と考えています。



杉浦農園 Gamba Farm では約6年前から学生ボランティアを受け入れています。杉浦さんは「農作業はしんどいし、泣き出す学生もいます。ですが、仲間と苦勞を分かち合うことで何かを得て帰ってくれているのでは」と話します。

神谷) 昨年に続き今年も参加しました。実際に経験することで農業の苛酷さを知り、農業の大変さを学びました。ご飯を食べることができるのは当たり前のことじゃない。農業に携わる方々が頑張ってくれている結果であり、食事の際には感謝することを忘れないようにし、友人をはじめさまざまな人に里山の素晴らしさ、農業の大切さ伝えていきたいです。
勝見) 農業従事者の高齢化が進む中、農村地域の生態系や保全の現状を知りたくて今回初めて参加しました。実際に参加して、農業に興味を抱きました。今後もさまざまなボランティアに参加できればと思います。



リーダー 神谷龍飛さん(20)摂南大学2年生(右)
サブリーダー 勝見朋恵さん(20)神戸大学3年生(左)